

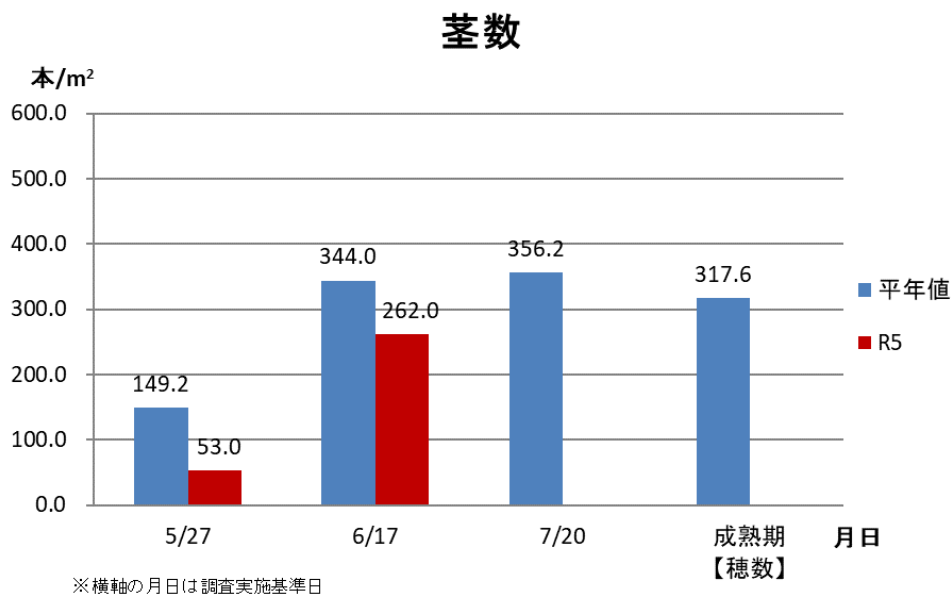
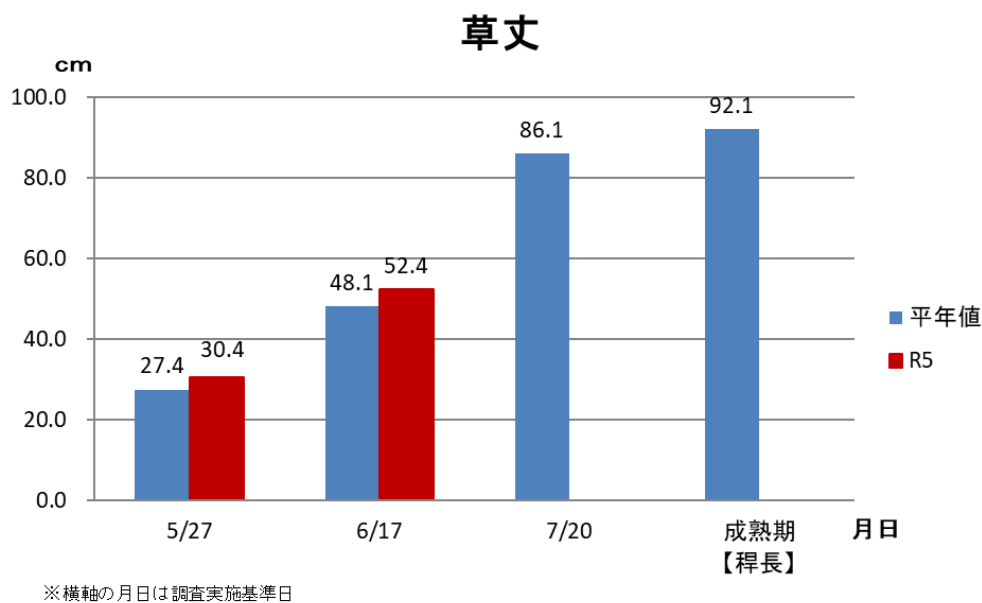
# 令和5年度 農作物（水稲）モニター事業調査結果

本県NOSA Iでは、水稲の生育状況を調査し、気象・病虫害発生状況などの基礎情報を継続的に観測して、県内水稲の作柄や被害発生状況の把握に務めています。

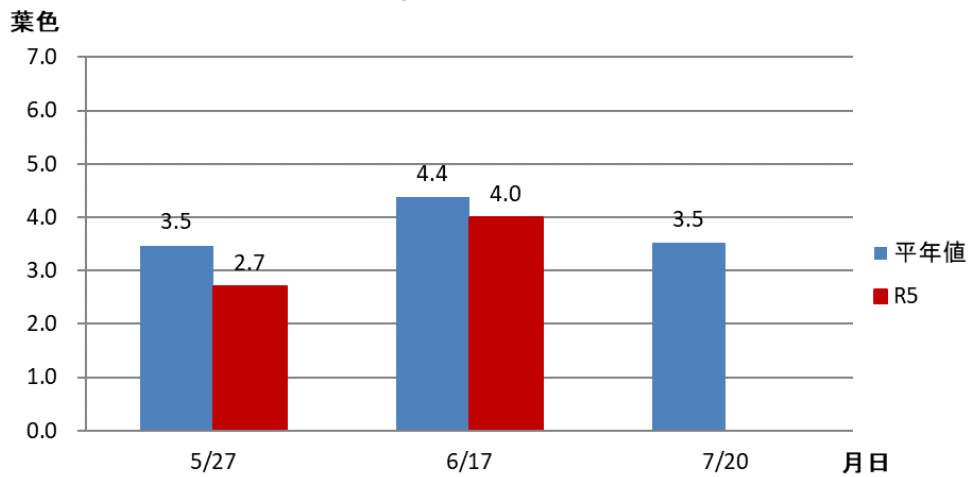
## 1. 水稲の生育および病虫害発生調査結果（第2回）

### 1) 水戸市の調査結果

調査場所	品種	移植日	調査日
水戸市	コシヒカリ	5月12日	6月20日

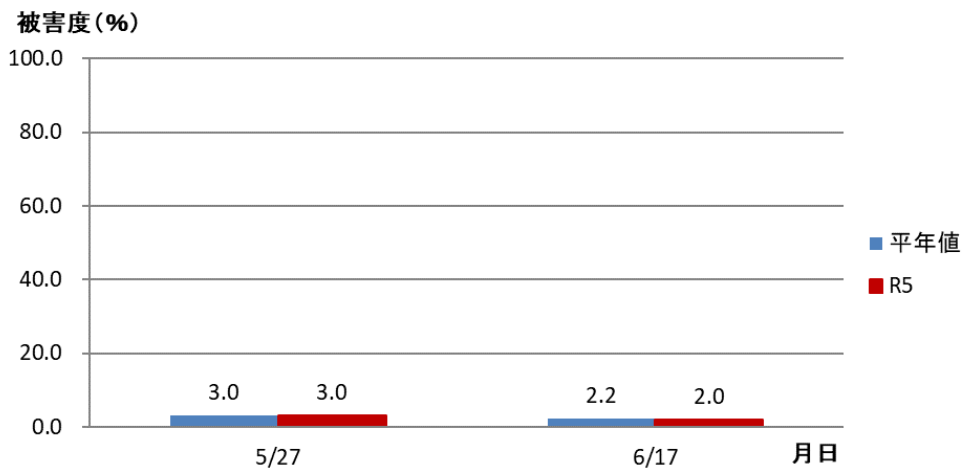


## 葉色(カラスケール)



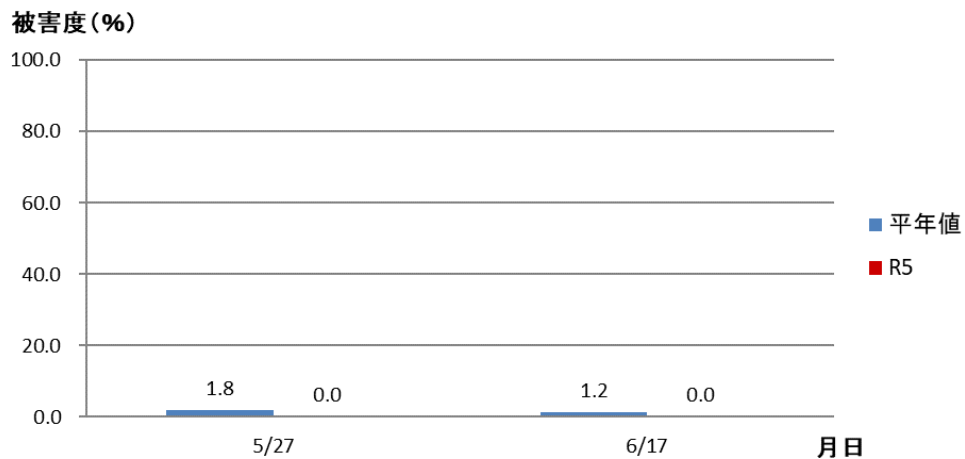
※横軸の月日は調査実施基準日

## イネミズゾウムシ



※横軸の月日は調査実施基準日

## イネドロオウムシ



※横軸の月日は調査実施基準日

○被害度は該当虫による葉の食害の度合い

○平年値は平成 30～令和 4 年の 5 年間の平均値

## ○生育調査の結果について

### 【生育状況：過去 5 カ年の平均値との比較】

生育は、過去 5 カ年の平均値に対し、草丈はやや高く、茎数は少なく、葉色はやや淡くなっています。

### 【今後の管理上の注意点】

茎数が平均よりも少なくなっています。深水により茎数の増加を抑制する場合がありますので、活着後は 2～3 cm 程度の浅水管理とし、水温を上げて分けつの発生を促進させ、茎数確保に努めましょう。一方、今後は茎数が急激に増加することが予想されますので、中干し適期を逃さないように注意します。「コシヒカリ」では、茎数 330 本/m<sup>2</sup>（畦間 30cm×株間 20cm で 1 株当たり 20 本）の確保を確認したら、速やかに中干しを開始します。

今後は梅雨期にあたりますので、確実な中干しを実施するためには、用水を止めるだけでなく、水尻（排水口）を低くしたり、暗渠の水甲を開けたりする等、完全に落水させるような工夫が必要です。

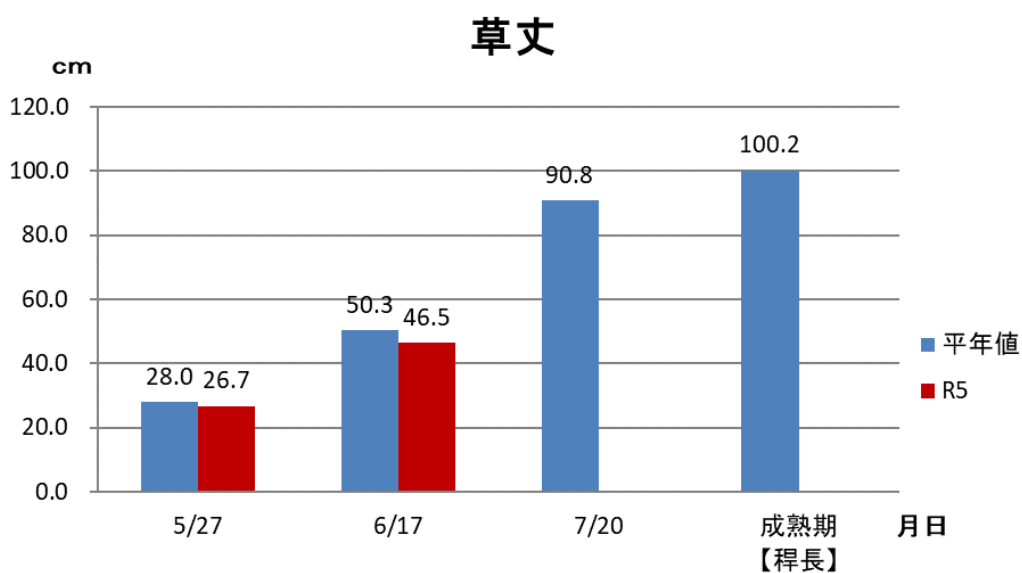
## ○病虫害発生調査の結果について

イネドロオイムシ、イネミズゾウムシともに発生が少なく、特に問題はないと思われます。梅雨時期ですのでいもち病の発生に注意して下さい。

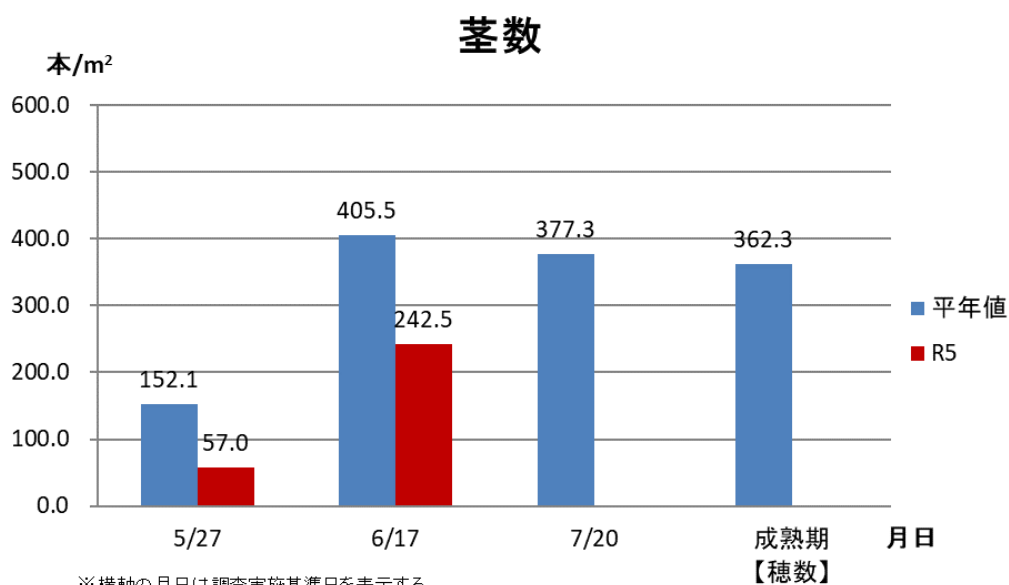
今後、斑点米カメムシ類の耕種的防除として、畦畔のイネ科雑草が穂をつけないよう除草することが有効です。ただし、水田内への追い込みを避けるため、水稻が出穂する 2 週間前までに除草を完了させて下さい。

## 2) 茨城町の調査結果

調査場所	品種	移植日	調査日
茨城町	コシヒカリ	5月13日	6月20日

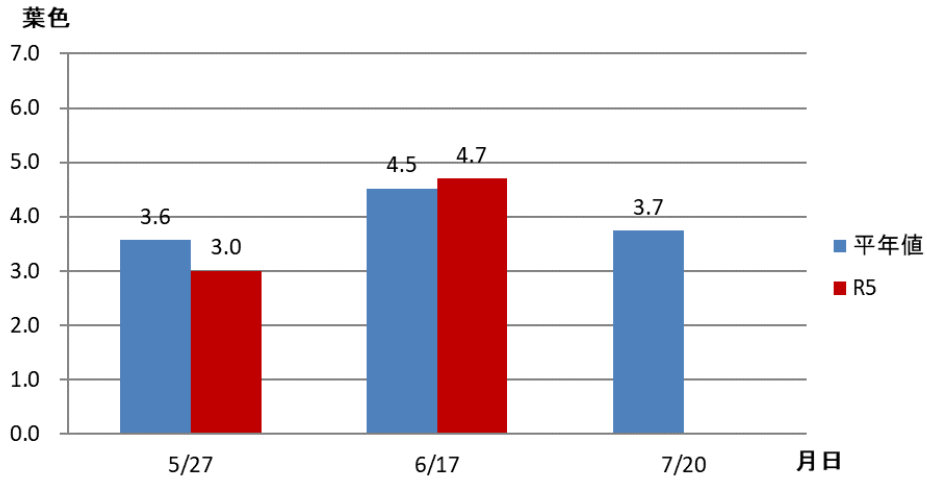


※横軸の月日は調査実施基準日を表示する。



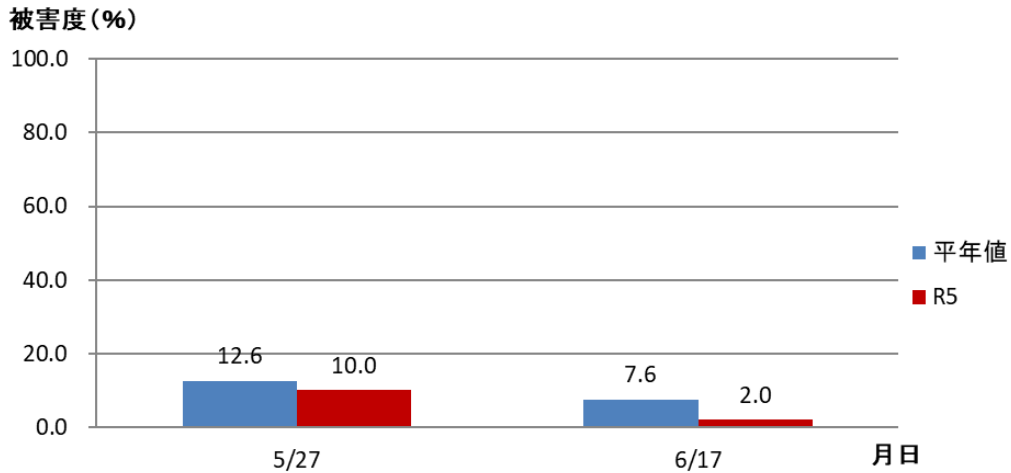
※横軸の月日は調査実施基準日を表示する。

## 葉色(カラースケール)



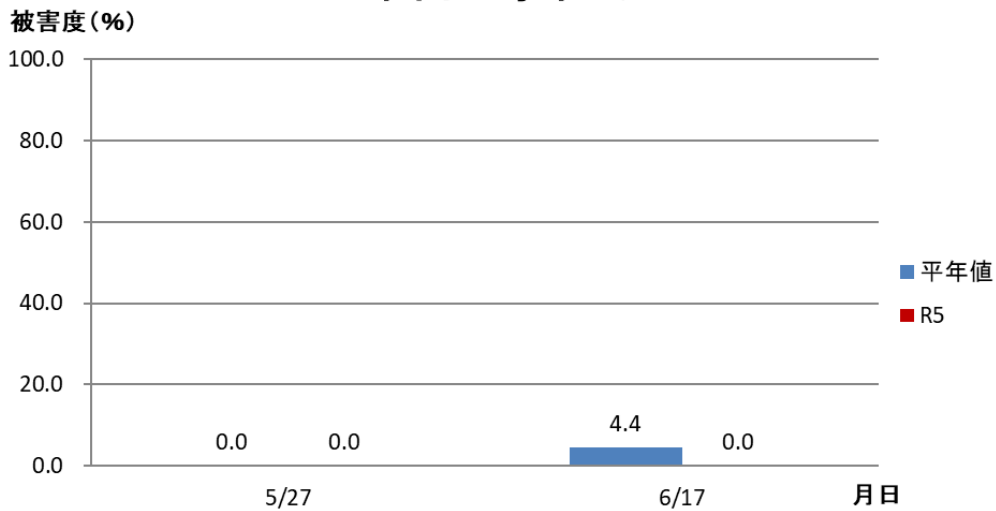
※横軸の月日は調査実施基準日を表示する。

## イネミズゾウムシ



※横軸の月日は調査実施基準日を表示する。

## イネドロオウムシ



※横軸の月日は調査実施基準日を表示する。

○被害度は該当虫による葉の食害の度合い

○平年値は平成30～令和4年の5年間の平均値

## ○生育調査の結果について

### 【生育状況：過去5カ年の平均値との比較】

生育は、過去5カ年の平均値に対し、草丈はやや低く、茎数は極少なく、葉色は平年並みとなっています。

### 【今後の管理上の注意点】

茎数が少なく推移していますが、今後、茎数 330 本/m<sup>2</sup>が確保された場合、速やかに中干しを開始してください。出穂 20 日前の生育が、草丈 80cm 以下、葉色 4.0 以下であれば、穂肥として出穂前 15 日を目安に窒素成分で 1～2kg/10a を施用して下さい。

今は梅雨期にあたりますので、確実な中干しを実施するためには、用水を止めるだけでなく、水尻（排水口）を低くしたり、暗渠の水甲を開けたりする等、完全に落水させるような工夫が必要です。

## ○病害虫発生調査の結果について

イネドロオイムシ、イネミズゾウムシともに発生が少なく、特に問題はないと思われます。梅雨時期ですのでいもち病の発生に注意して下さい。

今後、斑点米カメムシ類の耕種的防除として、畦畔のイネ科雑草が穂をつけないよう除草することが有効です。ただし、水田内への追い込みを避けるため、水稻が出穂する 2 週間前までに除草を完了させて下さい。

## 2. 次回調査日

7月20日

茨城県農業共済組合連合会調べ  
協力：茨城県農業総合センター